

# 探訪 北の風景 33

## 愛と平和 感謝と奉仕が理念のサンタランド

十勝管内広尾町

萩本和之

市町村よりも一足早く、33回目の今年は10月22日。小雨の中、広尾サンタランド・ジャズスクールの演奏を皮切りに、地元の保育所、幼稚園の子どもたちによるクリスマスソングの合唱。そして町内の小学生代表や村瀬優町長ら関係者がスイッチをオン。メインツリーに明かりがとまり、会場周辺の樹木やサンタの家などに飾られている約15万個のイルミネーションが一斉に輝き、空には約300発の花火が次々と打ち上げられ、光と音のページェントが繰り広げられた。眼下の町内会でも、それぞれ工夫されたツリーが点灯されて一気に幻想的なクリスマスモード一色となった。当日の様子は動画投稿サイトでも観られる。イルミネーションは12月31日まで。

都会の師走の商店街にはジングルベルが流れ、猥雑な喧嘩が盛り上がっているが、それとは対照的に、町ぐるみで静かにクリスマスを祝っているのは十勝管内広尾町。1984年にノルウェー・オスロ市から国外初のサンタランドとして認定されている。「愛と平和 感謝と奉仕」という基本理念をもとに町内の大丸山森林公園（広さ48ヘクタール）をシンボルゾーンとしてシンボルツリーやサンタの家、サンタの部屋などを整備している。

ツリーの点灯式は、毎年10月第4土曜日と他の

同森林公園はNPO地域活性化センター（静岡県）から「恋人の聖地」にも認定されており、この日も「サンタの鐘」のそばで町外のカップルの挙式が地元有志の手で華やかに執り行われた。サンタランドからの夢あふれる贈り物が2つある。一つは絵本作家、永田萌さんが描いたメルヘンチックのかわいいクリスマスカードが届く「サンタメール」事業。もう一つは本物のミニツリー。7年生の常緑針葉樹・スプリウスが、町内の障害者が一鉢ずつ手

サッポロファクトリーで11月3日から輝きを放つ広尾からのツリー。樹齢約40年で、高さ15メートル、重さ23トンのトドマツにLED3万5千個などが飾られている。3日の点灯式には約4千人が見守った



づくりした木鉢と一緒に贈られてくる。どちらもホームページなどから申し込める。

広尾では「1年中サンタの街を感じられるように」と、サンタの家では常時サンタ関連グッズを販売しているほか、「サンタクロス展実行委員会」が全国から公募したサンタにまつわる手作りの置物や玩具などを展示している。夢やロマン、優しさがあふれる作品の数々が披露されている。また「愛と平和」のメッセージも受け付けている。ハート型などの板飾り「お願い星」に記入、ツリーにつるすことができるようにもしている。

サンタランドのスタート時から民間サイドで支援してきた「サンタランド推進委員会」初代会長の内木実さんは「まだ町外へのアピールの仕方など工夫の余地はあるものの、着実に町ぐるみの運動となり、個人宅でもイルミネーションを楽しむ





小雨の中、町内外から多数の観客が集まり、光と音のページェントが繰り広げられたサンタランド点灯式。町内が一気にクリスマスモードに。「広尾スタイル・ウエディング」も執り行われた



サンタランドの“中核”サンタの家とシンボルツリー。点灯式を祝って打ち上げられた300発の花火が夜空をこがす。サンタの家では全国公募で寄せられたサンタ関連グッズや、訪問者が記入した「お願い星」を飾ったツリーもある

ようにもなってきた」と手ごたえを語る。  
 一方札幌でも「ひろおサンタランド」を体感できる。サッポロファクトリーに広尾から切り出した高さ15メートルのトドマツが飾られ、3万5千個の電装が付いたジャンボツリーがアトリウムで輝く。  
 しかし、サンタメール応募数が頭打ちなどの問題もあり、町では地域学習として「サンタランド助っ人」を買って出してくれた北海学園大（札幌）の学生らの若い目線でのアドバイスを受けて、より魅力アップを図るといふ。

へはぎもと かずゆき・元大学教員▽